

第23回国際言語学オリンピック・ブカレスト大会 日本代表のメダル獲得について

13回目の参加となることしの大会で、日本代表2チーム8名は、個人戦で金賞3つ（過去最多）、銀賞1つ、銅賞2つを、団体戦で努力賞1つを獲得しました。

国際言語学オリンピック日本委員会（IOL日本委員会）は、7月26日（日）から8月2日（日）までルーマニア・ブカレストで開催された「第23回国際言語学オリンピック（IOL2026）」に2チーム8名の日本代表選手を派遣しました。日本からの派遣はことしで14年目（13回目）となり、上記の通り過去最高クラスの結果を持ち帰りました。

弊委員会は、今後も国内予選大会の運営や国際大会への代表派遣を通じて、青少年を中心に広く言語学の楽しさや面白さを伝えてまいります。

ご多用とは存じますが、是非とも取材をご検討いただければ幸いです。



画像: 閉会式・結果発表後の日本代表たち

■日本代表選手の一覧

氏名	所属校・学年	賞	備考
東 優樹 (あずま・ゆうき)	東海高校2年 (愛知県)	個人戦: 金賞	Team Ninja 2025年出場
リー 謙二 (りー・けんじ)	ラ・サール高校2年 (鹿児島県)	個人戦: 金賞 団体戦: 努力賞	Team Samurai
安井 寛人 (やすい・ひろと)	慶應義塾高校3年 (東京都)	個人戦: 金賞	Team Ninja 2023, 2025年出場
戴 梓澄 (だい・つーちえん)	灘高校2年 (兵庫県)	個人戦: 銀賞 団体戦: 努力賞	Team Samurai
肥後 千広 (ひご・ちひろ)	広島大学附属福山高校2年 (広島県)	個人戦: 銅賞	Team Ninja
二宮 岬 (にのみや・みさき)	鹿児島情報高校2年 (鹿児島県)	個人戦: 銅賞 団体戦: 努力賞	Team Samurai
尾田 崇之 (おだ・たかゆき)	高槻高校3年 (大阪府)	団体戦: 努力賞	Team Samurai
平田 瑠輝 (ひらた・りゅうき)	札幌新川高校2年 (北海道)	なし	Team Ninja

■大会の概要

国際言語学オリンピック (IOL) は、主に中等教育課程の生徒を対象とした国際科学オリンピックの一つです。2003年にスタートし、毎年夏に開催されています。ことしの大会はルーマニアの首都ブカレストで開催され、日本を含む46の国と地域から65チーム、計255名が参加しました。

当大会が主眼に置くのは、言語学の楽しさ・面白さを伝え、中高生や一般の方の言語学・言語・言語多様性への関心を高めることです。言語学オリンピックの問題は、実際の言語研究で行われる分析に似ていて、「初めて見る言語のデータから隠れた法則を解き明かす」というものです。謎解きやパズルのように、分析力、情報処理能力、論理的思考、試行錯誤する力が求められます (下記例題を参照)。

例題 以下はインドネシア語の単語とその日本語訳です。

インドネシア語	日本語訳	インドネシア語	日本語訳
jalan	道	keringatan	汗びっしょり
berjalan	歩く	nafas	息
berkeringat	汗をかく	duri	とげ

(a) keringat を日本語に訳してください。

(b) 「息をする」「とげまみれ」をそれぞれインドネシア語に訳してください。

▶▶答えは次のページ

- 答え (a) keringat : 汗
(b1) 息をする : bernafas
(b2) とげまみれ : durian (=ドリアンのこと)
ber- をつけると動詞になる。-an をつけると「～だらけ」という意味になる。

問題を解くにあたり、「暗記力」は必要ありません。答案を書くために必要な情報はすべて問題の中に隠されています。語学試験や弁論大会とは異なり、英語やその他特定の言語を話したり書いたりするための運用能力は求められません。むしろ、偶然その言語を知っていることがないよう極めて認知度の低い言語を題材にした問題が出題されます。

ことしの日本代表は、「日本言語学オリンピック2026 (JOL2026)」および「アジア太平洋言語学オリンピック2026 (APLO2026)」により選抜されました。代表決定から国際大会までの4カ月の間、他の日本代表や過去大会経験者との合同練習会を計70時間、さらには自主練習を積んで、国際大会に備えました。練習会では、過去問を用いて、初めて見る言語のデータからその言語が持つ法則性を推論によって解き明かし、法則性を表やフローチャートを用いて表現する訓練を積みしました。

中学や高校では言語学に触れる機会がないため、日本代表であっても多くは言語学オリンピックを知るまでは「言語に潜む法則性を見つける」課題に取り組んだ経験がほとんどありません。それでも日本代表たちは国内予選への挑戦や問題演習、講義を通じて、努力を積み、言語の法則性を見出す推論能力を身に着け、高めていきました。

次回大会は2027年7月下旬、タイの首都バンコクで開催される予定です。

■賞の授与基準

IOLのメダルは全競技者数の上位約3割に授与され、金:銀:銅の受賞者の比率がおおむね1:2:3になるよう調整されます。

メダルには届かなくても、平均点以上の点数を獲得した競技者には、努力賞 (Honourable Mention) が授与されます。

最優秀解答賞 (Best Solution Award) は個人戦で問題ごとに選ばれ、各問題の上位1～3位で、満点かそれに近いエレガントな答案を提出し、想定解を超えた問題の本質的理解を示した競技者に授与されます。

ことしの個人戦では、最高点が86.0点、金賞ボーダーが70.0点、銀賞ボーダーが58.4点、銅賞ボーダーが45.8点、努力賞ボーダー (=平均点) が35.3点でした。また、金賞は14人、銀賞は30人、銅賞は40人、努力賞は44人に授与されました。

■その他

風間伸次郎（監修）、国際言語学オリンピック日本委員会著『パズルで解く世界の言語 言語学オリンピックへの招待』（研究社、2023年6月20日刊行）が発売中です。入門レベルの問題も含め45問の問題と解説、コラムを掲載。謎解きを楽しみつつ世界の言語に触れられます。

次の日本言語学オリンピック（JOL2027）が2026年年末にオンラインで開催予定です。誰でもご参加いただけます。参加資格に制限がないオープン枠（昨年は216名が応募）と、20歳未満かつ大学未入学者向けの選抜枠（昨年は884名が応募）があります。受験料は3000円です。腕試しにいかがでしょうか？

言語学オリンピックに関する一般的なご案内は、弊委員会公式サイト iolingjapan.org に掲載しております。サイト上のコンテンツはライセンスCC-BYの範囲内で自由にご利用いただけます。

また、弊委員会の公式 Twitter アカウント [@iolingjapan](https://twitter.com/iolingjapan) もぜひご確認ください。

■発信元

国際言語学オリンピック日本委員会 委員長 風間伸次郎 (東京外国語大学 教授)

お問い合わせ先:
国際言語学オリンピック日本委員会
事務局長 小林 剛士
メール: jol@iolingjapan.org

JOL | 国際言語学オリンピック
日本委員会